※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「歴史総合 近代から現代へ」（山川出版）						
副教材等	明解　歴史総合図説　シンフォニア　五訂版（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史総合は、歴史的思考を身につけることを目的とする。歴史的思考とは、歴史的な事象を総合的・俯瞰的にとらえある時代の歴史像を構築することを目指す思考方法である。この目的に接近するためには、一つ一つの史実の歴史的な背景や意義を、時代の全体状況をふまえて把握することが必要である。歴史的思考は、過去だけでなく、現在の時代状況を的確に把握するために有用であり不確実性が増しつつある今を生き抜くために必要なスキルである。

授業では、近代・現代に焦点をあて、世界と日本の歴史を密接に関連づけながら学ぶ。世界とその中の日本という視点で、それぞれの時代の全体像をとらえ、年表や用語の暗記ではなく、能動的に歴史像を構築する力を身に能動的な学びによって「歴史的思考」を磨くことが肝要である。

２　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と日本の歴史を関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	結びつく世界と日本の開国国民国家・第一次世界大戦	・18 世紀の東アジアにおける社会と経済 ・貿易が結んだ世界と日本 ・産業革命 ・中国の開港と日本の開国 ・市民革命 ・国民国家とナショナリズム ・明治維新 ・日本の産業革命 ・帝国主義 ・変容する東アジアの国際秩序 ・日露戦争と東アジアの変動 ・開発・保全 ・対立・協調 ・自由・制限 ・第一次世界大戦の展開 ・ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制	a：**18 世紀のアジアや日本における生産と流通，アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に，産業革命と交通・通信手段の革新，中国の開港と日本の開国をとらえ，18 世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向，日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを理解する。また、立憲体制と国民国家の形成を理解し、**帝国主義諸国による植民地獲得競争により，世界がどのように変容し第一次世界大戦へつながったのかを説明できる。 b：**18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響・産業革命，中国の開港と日本の開国・国民国家の形成・帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目し、アジア各地域間の関係，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，政治変革の特徴，国民国家の特徴や帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容・日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを表現している** c：**近代化の歴史に関わる諸事象・**立憲体制と国民国家の形成・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容・**国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容・**総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制**について，見通しを持って学習に取り組もうとし，中学校までの学習も振り返りながら課題を追究しようとしている。**	定期テスト	定期テスト レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り

※令和４年度以降入学生用

	総力戦と社会運動・経済危機と第二次世界大戦	・世界経済の変容と日本 ・アジアのナショナリズム ・大衆の政治参加 ・消費社会と大衆文化 1.世界恐慌の時代 2.ファシズムの伸長と共産主義 3.日中戦争への道 4.第二次世界大戦の展開 5. 第二次世界大戦下の社会 6. 国際連合と国際経済体制 7. 占領と戦後改革 8. 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 9. 日本の独立と日米安全保障条約	a：欧米列強のアジア，アフリカ，太平洋地域，ラテンアメリカにおける植民地獲得や勢力圏拡大の競争・列強の二極分化の過程とバルカン半島をめぐる危機・日露戦争や韓国併合にみられる近代日本の台頭・第一次世界大戦の帝国主義諸国間の覇権争いとしての性格，経過と影響に関する基本的な知識・日露戦争や韓国併合にみられる近代日本の台頭・ロシア革命の展開とソ連邦の成立・ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点と，アメリカの繁栄，ソ連邦の社会主義建設・世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況・国際連合を柱とした戦後の世界秩序の形成，ヨーロッパの東西分断と冷戦体制の確立，アジア諸地域の独立に関する基本的な知識を身に着けている。 b：帝国主義列強の植民地支配を受けたナショナリズムの発揚・第一次世界大戦の原因や特徴・ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもたらした緊張関係と矛盾・日本と中国，イギリスとインドやイスラーム諸国といった，干渉国と民族運動の高揚の関係・20世紀における大衆社会の出現とファシズム・第二次世界大戦の持っていた複合的で複雑な性格を戦後の国際社会の方向性・親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策の比較・西欧や日本の経済的な復興や高度成長などを現在の国際状況や問題と関連付けて考察し，文章にまとめる. c：帝国主義列強の侵略にさらされたアジア諸国における民族運動の形成と，このような世界情勢の中で日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったこと・第一次世界大戦勃発の経緯，戦時外交と総力戦の性格・ソ連邦成立に至るロシア革命の進展・戦間期の国際協調と平和への取り組みが実を結ばなかった理由・アジア諸民族の民族運動が大衆的な基盤を持ち，世界史の新しい潮流をつくり出したこと・イタリア，ドイツ，日本のファシズムの特徴と勢力拡張の過程・第二次世界大戦の開戦に至る経過，戦争の拡大と戦場の広域化，核兵器などの大量破壊兵器の被害・米ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造について関心を持って学習しようとしている。	定期テスト	定期テスト レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り

※令和４年度以降入学生用

後期	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題・冷戦と世界経済	1 対立・協調 統合・分化 平等・格差 ・冷戦と国際関係 ・人と資本の移動 ・高度情報通信 ・食料と人口 ・資源エネルギーと地球環境 ・感染症 ・多様な人々の共存	a：朝鮮戦争後の「雪どけ」と平和共存への試み・アメリカに続く西欧や日本の復興と経済成長・アジア＝アフリカ会議や非同盟諸国会議などにみられる，第三世界の連帯の動き・キューバ危機やベトナム戦争，中ソ対立やソ連の東欧諸国に対する介入，西ドイツの東方外交による緊張緩和の進展・オイル＝ショックなど戦後政治の転換期の動向や冷戦終結に関する基本的な知識を身につけている。 b：西欧や日本の経済的な復興や高度成長を，戦後の国際政治に与えた影響・ベトナム戦争やチェコスロヴァキア軍事介入など，米ソ両大国の動揺と関連付けて考察し，文章にまとめる。 c：米ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造・アジア諸地域の独立と建国時の困難さ・朝鮮戦争後，核兵器開発競争や平和共存政策といった国際的な緊張・融和がくり返されたこと・について，関心を持って学習しようとしている。	定期テスト	定期テスト レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り

※令和４年度以降入学生用

	・世界秩序の変容と日本	・冷戦下の地域紛争と脱植民地化 ・東西両陣営の動向と 1960 年代の社会 ・軍拡競争から緊張緩和へ ・地域連携の形成と展開 ・計画経済とその波及 ・日本の高度経済成長 ・アジアのなかの戦後日本 ・石油危機 ・アジア諸地域の経済発展 ・市場開放と経済の自由化 ・情報技術革命とグローバリゼーション ・冷戦の終結とソ連の崩壊 6. 現代の東アジア 7. 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 ・東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 ・地域統合の拡大と変容 ・地域紛争と国際社会 ・現代と私たち	a：アジア＝アフリカ会議や非同盟諸国会議などにみられる，第三世界の連帯の動き・キューバ危機やベトナム戦争，中ソ対立やソ連の東欧諸国に対する介入，西ドイツの東方外交による緊張緩和の進展・オイル＝ショックなど戦後政治の転換期の動向や冷戦終結への取り組み・東欧社会主義諸国の改革，ソ連邦の解体過程，EUやNAFTAなど先進経済地域の統合化の動き・ラテンアメリカやアジアの途上国で進展した民主化の過程と，アジア社会主義諸国の経済開放政策に関する基本的な知識を身につけている。 b：西欧や日本の経済的な復興や高度成長を，戦後の国際政治に与えた影響・アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策・冷戦の終結・ゴルバチョフによるソ連の改革・東欧社会主義圏の解体とソ連邦の分裂，消滅・中国・ベトナムで進む市場開放と工業化の進展・湾岸戦争とアフガニスタンやイラクに対する対テロ戦争における国際連合の行動を，冷戦の緩和と関連付けて考察し，文章にまとめる。 c：ベトナム戦争やチェコスロヴァキア軍事介入など，米ソ両大国の動揺・オイル＝ショック以降の先進国の社会変容や途上国の工業化・情報技術革命によって市場経済の世界化・ラテンアメリカやアジアの途上国における強権支配の後退と民主化の進展・新たな地域紛争の頻発，経済格差や深刻化する貧困問題など，現代の諸地域世界の情勢について，関心を持って学習しようとしている。	定期テスト	定期テスト レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り

※　表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度